



平成31年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年10月12日

上場会社名 株式会社 東天紅 上場取引所 東  
 コード番号 8181 URL https://www.totenko.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)小泉 和久  
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員 管理部長 (氏名)佐藤 昇 (TEL)03(3828)6272  
 四半期報告書提出予定日 平成30年10月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年2月期第2四半期の業績(平成30年3月1日～平成30年8月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第2四半期	3,322	4.7	△84	—	△80	—	△88	—
30年2月期第2四半期	3,172	2.3	△138	—	△138	—	△129	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第2四半期	△34.35	—
30年2月期第2四半期	△50.34	—

(注) 平成29年9月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年2月期第2四半期	12,816	10,175	79.4
30年2月期	12,529	10,292	82.1

(参考) 自己資本 31年2月期第2四半期10,175百万円 30年2月期10,292百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年2月期	—	0.00	—	10.00	10.00
31年2月期	—	0.00	—	—	—
31年2月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年2月期の業績予想(平成30年3月1日～平成31年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,100	4.1	100	105.4	100	99.8	50	119.4	19.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年2月期2Q	2,572,871株	30年2月期	2,572,871株
② 期末自己株式数	31年2月期2Q	4,346株	30年2月期	4,250株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年2月期2Q	2,568,606株	30年2月期2Q	2,568,770株

※ 平成29年9月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や企業業績の緩やかな回復が見られたものの、米国を中心とする通商政策問題や近隣諸国の地政学的リスクの高まり等の影響により、先行き不透明な状況が続いております。

こうした状況のもとで、当社は、引き続き会社構造改革を推進させ、粗利益確保に取り組み、既存店の黒字化を目指してまいりました。

まず、多様化する顧客ニーズに対応するため市場の情報収集やセールス担当の増員を行い、新規顧客の開拓や既存顧客の囲い込みを確実に実行し、宴会受注の強化に努めてまいりました。

各店舗においては、グルメサイト等のプランを随時見直し、SNS等の活用も行き、インターネット予約の強化を図り、宴会及びダイニングでの売上増加に努めました。

また、恒例のお中元・暑中見舞い商品として、通販商品「冷麺セット」を販売、合わせて食事券（東天紅葉券）、ペアディナー券などの商品券販売のネット訴求を強化致しました。

次に、婚礼ブランド「LUCIS（ルーキス）」においては、成約組数が目標達成圏内にあり、長期的な目標を視野に、各媒体への積極的販促や、商品戦略、演出等の向上に取り組んでまいりました。「Coeur et Coeur（クーレール）」「LA VIE CLAIR（ラ ヴィ クレール）」は、少人数規模の披露宴や食事会、海外挙式等を挙げられた新郎新婦の披露宴の受注など、新たな顧客層へのアプローチを行ってまいります。

保有不動産の有効活用のため、平成30年7月に千葉県習志野市の賃貸用不動産を売却することを決定いたしました。また、安定収益確保のため、平成30年7月に中野区南台の賃貸用不動産を取得し、さらに、同年8月に豊島区南長崎の賃貸用不動産を取得することを決定いたしました。

以上の結果、異常気象による自然災害の影響もありましたが、当第2四半期の売上高は予想通りに推移し、前年同四半期比4.7%増の33億2,291万円、営業損失は8,480万円（前年同四半期は営業損失1億3,892万円）、経常損失は8,059万円（前年同四半期は経常損失1億3,871万円）、四半期純損失は8,824万円（前年同四半期は四半期純損失1億2,932万円）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産・負債及び純資産の状況)

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ2億8,706万円増加いたしました。

これは主に、売上の増加並びに賃貸用不動産の売却に伴う手付金の入金等により現金及び預金が2億3,049万円増加、長期未収入金からの振替により流動資産その他が9億8,787万円増加した結果、流動資産が10億7,006万円の増加、固定資産は有形固定資産の償却並びに賃貸用不動産の取得、長期未収入金の振替等により7億8,299万円減少したことなどによります。

負債は前事業年度末に比べ4億349万円増加いたしました。

これは主に、借入金が3億3,910万円の増加及び不動産の売却に伴う手付金等により流動負債その他が9,792万円の増加、買掛金が4,705万円減少したことなどによります。

純資産は、前事業年度末に比べ1億1,642万円減少いたしました。

これは主に、四半期純損失8,824万円の計上及び期末配当金の支払などによります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期累計期間における現金及び同等物(以下「資金」という。)は7億1,334万円となり、前事業年度末と比較して2億3,049万円の増加となりました。

これは税引前四半期純損失8,144万円の計上、有形固定資産取得による支出及び、借入れによる収入並びに減価償却費の計上等によるものであります。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動の結果得られた資金は2億2,119万円となりました(前年同四半期は5,800万円の支出)。

これは主に税引前四半期純損失の計上及び、減価償却費の計上等によるものであります。

投資活動により使用した資金は3億425万円となりました(前年同四半期は10億8,556万円の支出)。

これは主に有形固定資産の取得による支出によるものであります。

財務活動により得られた資金は3億1,356万円となりました(前年同四半期は2億2,149万円の支出)。

これは主に借入れによる収入によるものであります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、当初予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成30年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	482,846	713,346
売掛金	397,142	311,366
商品及び製品	6,838	9,150
原材料及び貯蔵品	72,277	77,036
前払費用	63,784	61,080
未収還付法人税等	73,678	51,690
その他	61,683	1,004,641
貸倒引当金	△300	△300
流動資産合計	1,157,952	2,228,012
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	4,202,150	4,078,428
土地	3,820,659	4,181,036
その他（純額）	558,435	538,385
有形固定資産合計	8,581,245	8,797,850
無形固定資産	15,559	11,190
投資その他の資産		
投資有価証券	123,423	120,064
差入保証金	1,432,332	1,423,203
長期未収入金	987,873	—
その他	231,763	236,896
貸倒引当金	△600	△600
投資その他の資産合計	2,774,793	1,779,563
固定資産合計	11,371,598	10,588,604
資産合計	12,529,550	12,816,616
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	162,218	115,163
短期借入金	445,900	691,250
未払法人税等	53,700	37,500
賞与引当金	63,000	63,000
その他	372,408	552,033
流動負債合計	1,097,226	1,458,946
固定負債		
長期借入金	—	93,750
長期未払金	140,194	139,894
繰延税金負債	208,858	204,594
再評価に係る繰延税金負債	129,796	129,796
退職給付引当金	601,391	612,687
その他	59,728	1,019
固定負債合計	1,139,969	1,181,742
負債合計	2,237,196	2,640,689

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成30年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,572,092	2,572,092
資本剰余金	6,561,688	6,561,688
利益剰余金	2,553,164	2,439,233
自己株式	△9,725	△9,889
株主資本合計	11,677,218	11,563,123
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	33,639	31,307
土地再評価差額金	△1,418,503	△1,418,503
評価・換算差額等合計	△1,384,864	△1,387,195
純資産合計	10,292,354	10,175,927
負債純資産合計	12,529,550	12,816,616

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
売上高	3,172,789	3,322,914
売上原価	1,423,466	1,485,675
売上総利益	1,749,322	1,837,239
販売費及び一般管理費	1,888,252	1,922,047
営業損失(△)	△138,929	△84,808
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	2,527	2,311
未回収商品券受入益	770	1,041
保険配当金	1,821	1,717
還付加算金	—	1,925
その他	1,168	1,317
営業外収益合計	6,291	8,315
営業外費用		
支払利息	4,397	3,171
その他	1,679	926
営業外費用合計	6,076	4,097
経常損失(△)	△138,714	△80,590
特別利益		
投資有価証券売却益	12,972	—
特別利益合計	12,972	—
特別損失		
固定資産除却損	2,612	858
特別損失合計	2,612	858
税引前四半期純損失(△)	△128,354	△81,448
法人税、住民税及び事業税	4,203	10,032
法人税等調整額	△3,236	△3,236
法人税等合計	967	6,795
四半期純損失(△)	△129,321	△88,244



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失(△)	△128,354	△81,448
減価償却費	205,790	205,338
賞与引当金の増減額(△は減少)	1,000	—
退職給付引当金の増減額(△は減少)	14,209	11,296
受取利息及び受取配当金	△2,531	△2,314
支払利息	4,397	3,171
固定資産除却損	481	7
投資有価証券売却損益(△は益)	△12,972	—
売上債権の増減額(△は増加)	40,498	85,776
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,333	△7,070
仕入債務の増減額(△は減少)	△28,982	△47,055
未払金の増減額(△は減少)	17,047	△10,450
預り保証金の増減額(△は減少)	61,568	△651
その他	△68,085	82,927
小計	101,733	239,525
利息及び配当金の受取額	4,039	2,314
利息の支払額	△4,799	△3,225
法人税等の支払額	△158,979	△17,420
営業活動によるキャッシュ・フロー	△58,006	221,194
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△301,482	—
有価証券の償還による収入	300,000	—
有形固定資産の売却による収入	—	97,128
有形固定資産の取得による支出	△1,089,831	△400,726
投資有価証券の売却による収入	19,843	—
差入保証金の差入による支出	△14,022	△426
差入保証金の回収による収入	9,716	9,555
その他	△9,784	△9,784
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,085,560	△304,254
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	350,000
長期借入れによる収入	—	100,000
長期借入金の返済による支出	△221,325	△110,900
自己株式の取得による支出	△172	△164
配当金の支払額	—	△25,375
財務活動によるキャッシュ・フロー	△221,497	313,560
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,365,064	230,499
現金及び現金同等物の期首残高	1,908,148	482,846
現金及び現金同等物の四半期末残高	543,084	713,346

#### (4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店のほか付随的に外販・不動産賃貸等を営んでおりますが、飲食店としての事業がほとんどを占めており実質的に単一セグメントのため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。